

畜産総合対策部

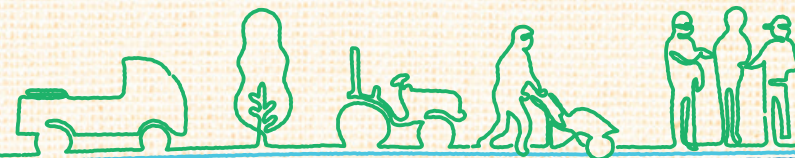
主な
事業内容

- ・グループ会社と連携した、牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵や加工品の販売、輸出
- ・「和牛甲子園」の開催を通じた次世代育成

飼料高騰、アニマルウェルフェアなどの課題が山積し、畜産のサステナビリティ(持続可能性)に黄信号が灯っています。JA全農畜産総合対策部は今年4月、部門横断で課題解決を図る「畜産サステナビリティ推進事務局」(略称:サステ

ナ事務局)を設置。セミナーやマンスリーレポートなどを通じてまずは事業取組内容の見える化、各部門やグループ会社、関係企業とのハブになることを目指します。サステナ事務局の設置の目的や今後の取り組みについてお聞きしました。

持続可能な畜産事業の構築を目指して



サステナブルな未来とは？

組織の壁を越えて連携

Q サステナ事務局
設置の背景は？

草さん 企業活動において、ESG課題への対応を重視する傾向が年々強まっています。本会畜産事業においても川上から川下までサステナビリティ上の課題が山積しており、現状の事業スタイルへの強い危機感から事務局が設置されました。

Q ミッションと活動内容を
教えてください。

草さん サステナ事務局は例えば今の農業高校生が畜産経営の経営層となる2050年の経済・社会・環境情勢を見据え、『持続可能な畜産事業』を目指して官公庁・グループ内外の結節点(ハブ)となってサステナビリティ戦略(以下、サステナ戦略)を構築していきます。

中里見さん 情報発信も重要なミッションの一つです。サステナブルな未来とアンサステナブルな未来に関するイラ



上・サステナブルな未来と
下・アンサステナブルな未来



畜産サステナビリティNews

JA全農 畜産総合対策部
統轄課 調査役
畜産サステナビリティ
推進事務局
クサ アキオ
草 明生さん
2008年入会。畜産生産部で飼料の輸入や品質保証を担当した後、環境省に転出。省庁とのパイプを生かし、4月から推進事務局で畜産サステナビリティ戦略の立案など事務局業務全般を担当。



ストを作成したり(左図参照)、畜産サステナビリティNEWSを月に1回、会内や経済連・グループ会社向けに作成・発信しています。いずれも分かりやすい言葉や見やすいレイアウトにすることを心がけています。

Q 今後の目標は？

草さん 来年3月の畜産事業委員会でサステナ戦略を提起することを目標に掲げています。

農業分野がSDGsに貢献できるポテンシャルは大きく、全農がリーディングカンパニーとして引っ張っていけると信じています。事務局がJAグループ全体のサステナビリティの取り組みを後押しできる存在になれたらと思います。



JA全農 畜産総合対策部
統轄課
畜産サステナビリティ
推進事務局
ナカサト ミユイ
中里見 悠衣さん
2019年入会。全農ミートブースへ出向した経験を生かし、主に販売面から畜産サステナビリティの推進を担う。セミナーの運営や広報素材制作など事務局業務全般を担当。

